

添え花用途の多花性草花の少量土壌培地耕による長期多収栽培技術

【要約】少量土壌培地耕で多花性草花を高冷地育苗や早播きで栽培することにより、6月の加温と電照栽培で秋から翌年初夏にかけて長期採花ができる。また、枝切り栽培を組み合わせることで、ホームユースに向くコンパクトな草花を多収生産できる。

農業技術振興センター 栽培研究部 花き・果樹分場 花き担当

【実施期間】平成17～19年度

【部会】農産

【分野】高品質化技術

【予算区分】県単

【成果分類】指導

【背景・ねらい】

全国的にホームユースの花き需要が増大し、家庭での利用を考えた50～60cmの切り花栽培の技術が求められている。多花性1年草のキンギョソウやダイアンサスを少量土壌培地耕で栽培することにより開花の早期化や草姿のコンパクト化を確認し、播種時期を早めることで、秋～翌年春の直売所に花が少ない時期に長期採花できた。そこで、添え花としての需要が強い多花性の草花品目について、長期多収栽培を検討する。

【成果の内容・特徴】

少量土壌培地耕を用いて高冷地育苗したスターチス＝シヌアータとデルフィニューム‘ベラドンナ＝インプ’の購入苗および早播きしたカンパニュラ‘涼姫’を栽培すると、最低夜温6℃加温と電照によりホームユースに向く50～60cmの切り花を、秋から翌年初夏にかけて継続して出荷できる（表1，表2，表3）。

高冷地育苗したデルフィニューム‘ベラドンナ＝インプ’は主茎天蕾の除去後に側枝が6輪開花した状態での枝切り（図1，図2）、早播きしたカンパニュラ‘涼姫’は株元から3枝残しての主茎切りと側枝の枝切りによる採花方法を行うことにより、長期にわたる多収栽培が可能となる（表2，表3）。

【成果の活用面・留意点】

直売所での販売では長く重い切り花はニーズが少ないので、軽量でコンパクトな草姿となる少量土壌培地耕が適する。

デルフィニューム‘ベラドンナ＝インプ’で行った枝切り採花法はホームユース向けの多収採花法であり、ボリュームを付けてスプレー状に採花すれば高単価で市場に出荷できるが、採花本数は減少する。

デルフィニューム‘ベラドンナ＝インプ’は一重の花穂がスプレー状に分枝し、ロゼット化しにくいベラドンナタイプであり、連続採花と枝切りが可能だが、大輪八重咲き大型花穂のエラータムタイプは低温でロゼット化しやすく、枝切り採花も不可能である。早播きのカンパニュラ‘涼姫’は、短かすぎる花茎ばかりの不良株が出る場合は選抜・間引きを行う。

[具体的データ]

表 1 高冷地育苗したスターチス=シヌアータの少量土壌培地耕による生産性と開花習性

品 種 名	切り花 本数/株	切り花 本数/m ²	切花長 (cm)	切花 重(g)	分枝数	採花期間(月/日)		
						採花始め	1/2採花	終了
サンデーバリエット	32.5	130.0	69.6	27.6	5.1	11/9	4/26	6/8
サンデーバリエーション	33.1	132.3	54.1	16.4	4.3	10/26	5/2	6/8

栽植様式：すべて少量土壌培地耕で栽培。発泡スチロール®ラタン、外径74.5cm×24cm×14cm、容量10リットルに培土を充填、2株/ラタンを2列で配置。栽植密度は4.0株/m²。
栽培管理：アクリルハウスで高冷地育苗された購入苗を14株/区で2006年9月21日定植、施肥・灌水は大塚OK-F1をEC0.5ds/mに調整し、点滴チューブで20~30ml/株/回を、9~11月と4~5月は3回/日、12~3月は2回/日で給液。最低夜温は12月7日より6℃で加温。採花方法は株元切り。

表 2 高冷地育苗したデルフィニウム‘ヘレナ=イン’の栽培法による生産性、開花習性の違い

栽培法	切り花 本数/株	切り花 本数/m ²	切り花長 (cm)	切り花 重(g)	分枝数	花蕾数	採花期間(月/日)		
							採花始め	1/2採花	終了
少量土壌	13.0	166.2	63.2	9.3	2.0	8.1	11/15	4/11	6/11
養液土耕	11.7	133.4	66.2	10.0	2.0	8.8	11/30	4/5	6/11

栽植様式：少量土壌はスターチス=シヌアータと同じ発泡スチロール®ラタンを使用し、4株/ラタンで定植、3列で配置。養液土耕：幅90cm、株間35cm×条間12cmで6条植え。栽植密度は少量土壌が12.8株/m²、養液土耕が11.4株/m²。
栽培管理：高冷地育苗された購入苗を2006年9月13日定植。施肥・灌水：大塚OK-F1をEC0.5ds/mに調整し、点滴チューブで10~15ml/株/回、9~11月と4~5月は3回/日、12~3月は2回/日で給液。9月20日より17:00~21:00の電照を行い、12月7日より設定温度6℃で加温した。採花方法は主茎の天蕾を除去し、側枝が6輪開花時の枝切りを基本とした。



図 1 枝切りのデルフィニウム



図 2 枝切り前のデルフィニウム

表 3 カンパニュラ‘涼姫’の栽培法による生産性、開花習性の違い

栽培法	切り花 本数/株	切り花 本数/m ²	切り花長 (cm)	切り花 重(g)	開花 輪数	採花期間(月/日)		
						採花始め	1/2採花	採花終了
少量土壌	56.6	724.5	60.0	5.4	5.7	9/29	2/22	5/25
養液土耕	63.8	727.3	65.1	6.7	6.7	10/2	3/19	5/25

栽植様式：少量土壌、養液土耕ともにデルフィニウムと同じ。
栽培管理：2006年6月7日播種、7月14日ポット上げ、9月13日定植。施肥・灌水、電照、加温はデルフィニウムと同じ。採花方法は株元から3枝残しの主茎切りと枝切りの併用。

[その他]

- ・ 研究課題名
 - 大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発
 - 中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発
 - 小課題名：花きの高品質省力生産技術の開発
- ・ 研究担当者：田口友朗（H17~19）、村木慎吾（H17~19）
- ・ その他特記事項：平成16年度要請課題（東近江地域農業改良普及センター）
平成17年度要請課題（湖東地域農業改良普及センター）
平成18年度要請課題（湖北地域振興局農産普及課）